



Sitecore CMS 6.6 & DMS 6.6

Engagement Analytics

設定リファレンス ガイド

デベロッパーおよび管理者向けの基本概念

目次

第 1 章	イントロダクション.....	4
第 2 章	Sitecore Engagement Analytics の概要.....	5
2.1	Engagement Analytics の機能と概念.....	6
2.1.1	ページ要求の追跡.....	6
2.1.2	Engagement Analytics へのアクセス.....	6
	訪問者の識別.....	6
2.1.3	訪問者タグ.....	6
2.1.4	Engagement Analytics プロファイル.....	7
2.1.5	Engagement Analytics ページ イベント.....	7
	ゴールと未達成.....	7
	キャンペーン.....	7
	Engagement Analytics ページ イベントの登録方法.....	8
	URL クエリ文字列パラメーターを使用してイベントをトリガーする方法.....	8
	クエリ文字列パラメーターをイベントにマッピングする方法.....	8
2.1.6	キャンペーン カテゴリ.....	8
2.1.7	リバース DNS ルックアップ.....	9
2.1.8	GeoIP ルックアップ.....	9
2.1.9	自動ロボット検出.....	9
2.1.10	Engagement Analytics の Email 配信.....	9
2.2	多変量テスト.....	11
2.2.1	多変量テスト定義と多変量テスト変数.....	11
2.3	Engagement Analytics のアーキテクチャ.....	12
2.3.1	Engagement Analytics データ キュー.....	12
第 3 章	Engagement Analytics の設定.....	13
3.1	アナリティクス データベース.....	14
3.1.1	アナリティクス データベースの無効化.....	14
	実行時パーソナライゼーション.....	14
3.2	アナリティクス クライアント ロール.....	15
3.3	アナリティクス設定の設定.....	16
3.3.1	追加の Engagement Analytics の設定.....	19
	Analytics.Patterns.MinimalProfileScoreCount 設定.....	19
3.4	アナリティクス プロバイダー.....	20
3.5	GeoIP ルックアップ プロバイダー.....	21
3.5.1	GeoIP ルックアップ プロバイダーの実装方法.....	21
3.5.2	MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーの設定.....	21
	MaxMind.Encoding 設定.....	22
	MaxMind.Format 設定.....	22
	MaxMind.SecurityToken 設定.....	22
	MaxMind.Url 設定.....	22

3.6	サイト定義 enableAnalytics 属性	23
3.7	Sitecore DMS でのデータ収集とレポート作成に別々のデータベースを使用する	24
3.7.1	データの転送	24
3.7.2	データ収集用とレポート用に別々のデータベースを使用するように Sitecore を設定する	25
	概要	25
	SQL Server 上に Sitecore DMS Data Transfer Package を展開する	25
	スケジュールされたジョブの設定	27
	専用オートメーション データベースの設定	32
3.8	Sitecore_Analytics データベースのレポート概要データを更新する SQL Server エージェントの 設定	33
3.9	エグゼクティブ ダッシュボード設定ファイル	35
第 4 章	Sitecore.Analytics API	37
4.1	Sitecore.Analytics API の概要	38
4.1.1	Sitecore.Analytics.Tracker	38
	Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentPage	38
	Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentVisit	38
4.1.2	Sitecore.Analytics.TrackerDataContext	38
	Sitecore.Analytics.TrackerDataContent.Tags	38
4.1.3	VisitorIdentification	38
第 5 章	Engagement Analytics のトラブルシューティング	39
5.1	Engagement Analytics のトラブルシューティングの概要	40
5.1.1	Sitecore ログ	40
5.1.2	Engagement Analytics コントロール パネル	40

第 1 章

イントロダクション

この文書では、Sitecore Customer Engagement Platform (CEP: カスタマー エンゲージメント プラットフォーム) および Sitecore Engagement Analytics (エンゲージメント アナリティクス) の設定と使用方法について説明します。Sitecore 管理者と開発者は、Engagement Analytics を実装する前にこの文書をよくお読みください。

この文書では、Engagement Analytics アーキテクチャの概要、Engagement Analytics 設定の詳細、頻繁に使用する Engagement Analytics Application Programming Interface に関するアドバイス、およびトラブルシューティング手順について説明します。

このマニュアルの情報は、Sitecore CMS 6.6 以降および Sitecore DMS 6.6 以降に適用されます。

このマニュアルには次の章があります。

- **第 1 章 — イントロダクション**

このドキュメントの概要について説明します。

- **第 2 章 — Sitecore Engagement Analytics の概要**

この章では、Sitecore DMS の概要と機能を紹介し、続いて Engagement Analytics エンジンのアーキテクチャについて説明します。

- **第 3 章 — Engagement Analytics の設定**

この章では、データベース、設定、プロバイダーなど、Engagement Analytics エンジンの設定方法を説明します。

- **第 4 章 — Sitecore.Analytics API**

この章では、Sitecore.Analytics API について説明します。

- **第 5 章 — Engagement Analytics のトラブルシューティング**

この章では、Engagement Analytics エンジンで起きる問題のトラブルシューティング手順について説明します。

第 2 章

Sitecore Engagement Analytics の概要

この章では、Sitecore Engagement Analytics の概要と機能を紹介し、続いてEngagement Analytics エンジンのアーキテクチャについて説明します。

この章には次のセクションがあります。

- Engagement Analytics の機能と概念
- 多変量テスト
- Engagement Analytics のアーキテクチャ

2.1 Engagement Analytics の機能と概念

このセクションでは、Engagement Analytics の概念と、それに対応する機能の実装手順について説明します。

重要

この文書における設定 ファイルに関する記載の大部分は、システム上にある /App_config/include/Sitecore.Analytics.config のエントリを指します。

2.1.1 ページ要求の追跡

Engagement Analytics エンジンには、すべてのページ要求を自動追跡しますが、特定の要求の追跡を取り消すことができます。Engagement Analytics のほとんどの処理には、Web クライアントがアクセスするときの一連の要求が伴います。Sitecore では、各ページ要求がデータベースの 1 つのアイテムに相当します。したがって、Engagement Analytics の各処理が Sitecore アイテムに関連付けられます。これをページとも言います。

2.1.2 Engagement Analytics へのアクセス

Engagement Analytics へのアクセスとは、ページに関連付けられたイベントを含めて、1 回のブラウザー セッションで 1 つの Web クライアントから送信される一連の HTTP 要求のことです。

単一ユーザーからの一連の HTTP 要求を識別するために、Sitecore は Engagement Analytics セッションの Cookie を Web クライアントに送信します。セッションの Cookie の名前は SC_ANALYTICS_SESSION_COOKIE です。最初のカンマ文字 (",") より前のセッションの Cookie の値が、セッション テーブルの SessionID コラムの値に一致し、アナリティクス データベースの Engagement Analytics の訪問者記録の特定に使用されます。セッションの Cookie は、ユーザーが Web クライアントを閉じると期限が切れます。

Engagement Analytics アクセスは、ブラウザー セッションを表します。アクセスは、常にではありませんが、多くの場合 ASP.NET セッションに対応し、複数の ASP.NET セッションにわたる場合もあります。たとえば、ASP.NET では web.config ファイルの /configuration/system.web/sessionState エレメントの timeout 属性によって指定された分数が過ぎると ASP.NET セッションが終了します。Web クライアントからの最初の要求で、ASP.NET セッションに対応する Engagement Analytics アクセスが作成されます。ASP.NET セッションが次の要求より前に期限切れになった場合、ASP.NET では新しいセッションが作成されますが、Sitecore では新しいアクセスは作成されません。1 つのアクセスが、ASP.NET のセッション中およびセッション間のユーザーのアクティビティを表します。

訪問者の識別

Engagement Analytics の訪問者とは、1 つの Web クライアントからの複数の個々のアクセスを表します。

単一ユーザーからの反復アクセスを識別するために、Sitecore は永続セッションの Cookie を Web クライアントに送信します。永続セッションの Cookie の名前は SC_ANALYTICS_GLOBAL_COOKIE です。永続セッションの値は、グローバル セッション テーブルの CookieValue のコラム値に一致し、アナリティクス データベースの訪問者記録の特定に使用されます。永続セッションの Cookie は、Web クライアントによってソリューションから最後のページが要求されてから 1 年後に期限が切れます。

2.1.3 訪問者タグ

訪問者タグを使用すると、アクセスに関する Engagement Analytics 属性をストアできます。それぞれの属性は個別のサイト訪問者を表します。訪問者の詳細については、「訪問者の識別」のセクションを参照してください。

重要

訪問者タグは、セキュリティ プロファイルおよび Engagement Analytics プロファイルとは異なります。訪問者タグは、ユーザーまたは個々の ASP.NET セッションではなく、個々の Web クライアントの訪問者に適用されます。Engagement Analytics プロファイルの詳細については、「Engagement Analytics プロファイル」のセクションを参照してください。ユーザー プロファイルの詳細については、『セキュリティ リファレンス』を参照してください。

メモ

訪問者タグの値は、個々の Web クライアントの訪問者に適用されます。同じユーザーが 2 種類のユーザー エージェントを使用して Web サイトにアクセスした場合、Engagement Analytics エンジンでは別々のタグ値で 2 つのアクセスを記録します。

2.1.4 Engagement Analytics プロファイル

Engagement Analytics プロファイルには、各アクセスから収集された情報が含まれます。プロフィール値をコンテンツ アイテムに割り当てると、ユーザーがそのコンテンツにアクセスしたとき、そのユーザーのプロファイルを自動的に更新することができます。アクセスの詳細については、「Engagement Analytics へのアクセス」のセクションを参照してください。

重要

Engagement Analytics プロファイルは、セキュリティ プロファイルおよび訪問者タグとは異なります。Engagement Analytics プロファイルは、ユーザーや訪問者ではなく、個々の Web クライアントの個々のアクセスに適用されます。訪問者タグの詳細については、「訪問者タグ」のセクションを参照してください。

メモ

Engagement Analytics プロファイルの値は、個々の Web クライアントの個々のアクセスに適用されます。同じユーザーが 2 種類のユーザー エージェントを使用して Web サイトにアクセスした場合、Engagement Analytics エンジンでは別々のプロフィール値で 2 つのアクセスを記録します。

2.1.5 Engagement Analytics ページ イベント

Engagement Analytics エンジンでは、ゼロ以上のイベントを各ページ要求に関連付けます。デフォルトでは、各ページ要求はイベントを発生させます。ASP.NET のポストバック テクノロジーの代わりに AJAX を使用するアンケートで、ユーザーがフォームをクリアしたり投票を送信したりするなど、ユーザーのアクションによってイベントが発生するように設定することができます。タイマーが設定時間に達したり、ビデオが末尾まで再生されたりするなど、システム操作でイベントを生成することも可能です。

ゴールと未達成

ユーザーがリソースにアクセスする、あるいはフォームをすべて記入する、というように Web サイト所有者の特定のゴールを表すイベントを指定できます。逆に、ユーザーが検索結果リストのリンクをどれもクリックしない、などの未達成を表すイベントも指定できます。特定の種類のゴールや未達成を登録するには、「Engagement Analytics ページ イベントの登録方法」のセクションで説明されているように、System/Analytics/Goal データ テンプレートを使用します。

キャンペーン

キャンペーン イベントを起動するには、sc_camp クエリ文字列パラメーターの値を使用します。あるいは、待ち受けページのようなコンテンツ アイテムにキャンペーンを割り当てることができます。キャンペーンの詳細については、「**Error! Reference source not found.**」のセクションを参照してください。sc_camp クエリ文字列パラメーターの名前を変更する場合は、「Analytics.CampaignQueryStringKey 設定」のセクションを参照してください。

Engagement Analytics ページ イベントの登録方法

/Sitecore/System/Settings/Analytics/Page Events アイテムには、事前定義されたページ イベントが多数あります。セッション開始、セッション終了、検索、ログアウトなどの、よく生じるセッションが含まれます。

追加ページ イベントを登録する方法:

1. **コンテンツ エディター**で /Sitecore/System/Settings/Analytics/Page Events アイテムを選択します。
2. **コンテンツ エディター**で、System/Analytics/Page Eventデータ テンプレートを使用してイベント定義アイテムを挿入します。

メモ

コードと設定ファイルは、イベント定義アイテムを名前参照します。

ヒント

コンポーネント内のイベントを特定するには、Video Starts や Video Concludes のようにパターンを使用します。

3. **コンテンツ エディター**で、イベント定義アイテムの [データ] セクションにイベント パラメーターを入力します。

URL クエリ文字列パラメーターを使用してイベントを起動する方法の詳細については、「URL クエリ文字列パラメーターを使用してイベントをトリガーする方法」のセクションを参照してください。

重要

イベントは、どのように使用する場合でもその前に登録する必要があります。

URL クエリ文字列パラメーターを使用してイベントをトリガーする方法

イベント、ゴール、または未達成の名前に sc_trk URL クエリ文字列パラメーターを設定できます。このパラメーターの名前の設定については、「Analytics.EventQueryStringKey 設定」のセクションを参照してください。

クエリ文字列パラメーターをイベントにマッピングする方法

任意のクエリ文字列パラメーターがイベントをトリガーするように設定する方法:

1. web.config で、type 属性の値が Sitecore.Analytics.Pipelines.StartTracking.ProcessQueryString,Sitecore.Analytics である /configuration/sitecore/pipelines/startTracking/processor エlement内に <trigger> Elementを追加します。
2. <trigger> Elementで、クエリ文字列パラメーターの名前に querystring 属性を設定します。
3. <trigger> Elementで、トリガーするイベントの名前に eventname 属性を設定します。

指定されたクエリ文字列パラメーターが URL に含まれている場合、指定されたイベントを Engagement Analytics エンジンが記録します。

メモ

Engagement Analytics のデフォルト設定では、sc_rss という名前の URL クエリ文字列パラメーターが、RSS という名前のイベントにマッピングされます。

2.1.6 キャンペーン カテゴリ

キャンペーン カテゴリとは、1 つまたは複数のメディア チャンネルを通じて製品やサービス、その他の提供物に対する関心を促進しようとするマーケティング手法です。各アクセスは、1 つまたは複数のキャンペーン カテゴリに関連付けることができます。Engagement Analytics ユーザーは、キャンペーンでアクセス データをフィルターできます。キャンペーンおよびキャンペーン カテゴリ処理の詳細については、『マーケティング オペレーション クックブック』を参照してください。

2.1.7 リバース DNS ルックアップ

リバース DNS ルックアップを使用すると、サーバーのアドレスを指定することで人間の読みやすい名前を得ることができ、IP アドレスの所有者に関する情報を得るのに使用できます。

2.1.8 GeoIP ルックアップ

GeoIP ルックアップを使用すると、IP アドレスの場所および所有者に関してリバース DNS ルックアップより詳細な情報を得ることができます。レポートに GeoIP 情報を含めるために、Engagement Analytics エンジンにはルックアップを実行する外部サービスを使用します。

メモ

GeoIP ルックアップ サービスを利用する場合は、MaxMind などのサードパーティーにお問い合わせください。MaxMind の詳細については、「MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーの設定」のセクションを参照してください。この製品には、MaxMind で作成された GeoLite データが含まれています (<http://www.maxmind.com/>)。MaxMind の詳細については、<http://sdn.sitecore.net/Products/OMS/MaxMind.aspx> を参照してください。

2.1.9 自動ロボット検出

Engagement Analytics エンジンには、検索エンジンのようなロボットを自動的に検出し、そのアクセスを実際ユーザーのアクセスとは別に分類することができます。Engagement Analytics は、デフォルトでロボット セッションをドロップします。この機能は、ロボットと誤って識別される訪問者がいる場合、無効になる可能性があります。

Sitecore は、多くの基準を使用してロボットの識別を試みます。ロボットは、短時間のうちに多数の要求を発行する傾向がある一方、Cookie をサポートしない、およびコンテンツで参照されている CSS ファイルやメディアを要求しない傾向があります。必要な場合には、ユーザーがロボット アクセスをライブ アクセスとして再分類することも可能です。

2.1.10 Engagement Analytics の Email 配信

Email による Engagement Analytics レポートの配信を設定するには、コンテンツ エディターで /Sitecore/System/Settings/Analytics/Reports/Reports アイテムの [データ] セクションの [スケジュール] フィールドを編集します。このフィールドに値が含まれる場合は、root エlement <schedule> のある XML 文書である必要があります。<schedule> エlementの子はそれぞれ、<report> エlementにする必要があります。各 <report> エlementに、1 つの Email レポートのプロパティを指定します。

たとえば、次の XML には次のような Schedule フィールドがあります：

```
<schedule>
  <report
    reportitem="/sitecore/system/Settings/Analytics/Reports/Reports/Marketing/Metrics"
    recipients="alias@domain.tld"
    recurrence="everyday"
    title="Metrics"
    days="1"
    format="html" />
  <!-- additional <report> elements -->
</schedule>
```

次の表で説明されている <report> エLEMENTの属性は、必須です:

属性	説明
reportitem	レポート定義アイテムのフルパス。
recipients	カンマで区切った Email アドレス。
Recurrence	配信の頻度 (everyday、weekdays、Mondays、Tuesdays、Wednesdays、Thursdays、Fridays、Saturdays、Sundays、monthly、biweekly)。複数の値はカンマ (",") で区切る。この値では大文字と小文字は区別されない。
Title	Email メッセージのタイトル。
Days	レポートに含めるアナリティクス データの日数。
Format	レポートフォーマット (html、pdf、png、rtf、word2007、excel2007)。

web.config で type Sitecore.Analytics.Tasks.EmailReportsTask を持つ /configuration/sitecore/scheduling/agent エLEMENTが、アナリティクス レポートを Email で配信します。このエージェントは 1 時間ごとに実行されますが、1 日に 1 度、深夜 0 時直後にレポート処理を実行するために /Sitecore/System/Settings/Analytics/Reports/Reports アイテムの Last Run フィールドの値をチェックします。レポート処理の完了後に、LastRun フィールドは更新されます。

メモ

Sitecore は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で name MailServer によって指定される SMTP サーバーを使用します。

メモ

Engagement Analytics レポートは、Sitecore ユーザー インターフェイスと API を使用して Email 配信することもできます。

2.2 多変量テスト

Engagement Analytics エンジンを使用すると、多変量テストを適用できます。多変量テストを使用すると、各プレゼンテーション コントロールのデータ ソースを動的に設定できます。

2.2.1 多変量テスト定義と多変量テスト変数

多変量テストはそれぞれ、1 つまたは複数の多変量テスト変数を含む多変量テスト定義アイテムで構成されます (テストセット)。それぞれの多変量テスト変数には、システムがその変数を適用するとき、プレゼンテーション コントロールのデータ ソースとして適用するアイテムを指定します。多変量テスト定義アイテムには、システムがどの多変量テスト変数を選択してレンダリングのデータ ソースとして適用するかを決める手段を指定します。レイアウト詳細を使用すると、ユーザーが多変量テストを選択して各プレゼンテーション コントロールを適用できます。多変量テストの構成およびテスト変数の詳細については、『マーケティング オペレーション クックブック』を参照してください。

2.3 Engagement Analytics のアーキテクチャ

Engagement Analytics エンジンは、各ページ要求にアナリティクス処理ロジックを追加します。

2.3.1 Engagement Analytics データ キュー

ページ要求があるたびに、多数のページ イベントとユーザー プロファイル情報が生成されることがあります。ページをレンダリングする際のパフォーマンスへの影響を減らすために、Sitecore Engagement Analytics エンジンはこのデータをメモリー内の訪問者データセットに書き込みます。訪問者データが指定されたサイズに達するか、指定された制限時間に達すると、データはメモリー内の共有データセットに移動されます。共有データセットが指定されたサイズに達するか、指定された制限時間に達すると、大容量データベースの操作によってデータは固定のデータベース記憶域に送られます。

サイズと制限時間を設定する方法は、この文書の「Analytics.MaxQueueSize 設定」のセクションを参照してください。

重要

キュー サイズは、ピーク時のソリューション インフラストラクチャの超過を避けるように、あるいは未確認で負荷のかかる検索エンジンによる被害を抑えるように設定してください。

第 3 章

Engagement Analytics の設定

この章では、データベース、設定、プロバイダーなど、Engagement Analytics エンジンの設定方法を説明します。

この章には次のセクションがあります。

- アナリティクス データベース
- アナリティクス クライアント ロール
- アナリティクス設定の設定
- アナリティクス プロバイダー
- GeoIP ルックアップ プロバイダー
- サイト定義 enableAnalytics 属性
- Sitecore DMS でのデータ収集とレポート作成に別々のデータベースを使用する

3.1 アナリティクス データベース

Web サイト上でアナリティクス データを収集するのに使用されるデータベースは、/App_Config/ConnectionStrings.config の /connectionStrings/add エLEMENTの connectionString 属性で、name=analytics によって指定されます。複数の Sitecore インスタンスが同じアナリティクス データベースにアクセスできます。たとえば、ロード バランサーの背後にある複数のコンテンツ デリバリ インスタンスが、別々のコンテンツ管理サーバーによってアクセスされるアナリティクス データベースにデータを投入して、レポートを生成する場合があります。

アプリケーションをレポートするのに使用されるデータベースは、/App_Config/ConnectionStrings.config の /connectionStrings/add エLEMENTの connectionString 属性で、name=reporting によって指定されます。Stimulsoft レポート、エグゼクティブ ダッシュボード、EAS スーパーバイザー、および EAS モニターで、この属性の文字列が定義されている場合、データベースをレポートするのに使用されます。

注意

Sitecore は、アナリティクスの機能として Microsoft SQL Server をサポートしています。

3.1.1 アナリティクス データベースの無効化

Sitecore.Analytics.config ファイルには、アナリティクス データベースを無効化するための設定が記述されています。この設定ファイルは、

¥wwwroot¥SitecoreInstallation¥Website¥App_Config¥Include フォルダに保存されています。

アナリティクス データベースを無効にする設定は次のとおりです。

```
<setting name="Analytics.DisableDatabase" value="false" />
```

デフォルト値は 1 です。

アナリティクス データベースを無効にすると、同データベースに対する情報の読み取りと書き込みが行われなくなります。

実行時パーソナリゼーション

アナリティクス データベースを無効にした場合でも、Sitecore を使用して実行時パーソナリゼーションを行うことができます。実行時パーソナリゼーションとは、現在のセッション中の訪問者の挙動に基づいたパーソナリゼーションのことです。

パーソナリゼーション ルールには、データベースに登録されているデータに基づかないものが多数あります。たとえば、デバイス、目的、イベント、トラフィックの種類などに基づくルールです。

当然ですが、履歴データに基づくパーソナリゼーション ルールは実装できません。

3.2 アナリティクス クライアント ロール

Sitecore Analytics セキュリティ ロールは、Sitecore ユーザー インターフェースにおける Engagement Analytics 機能へのアクセスを制御します。これらのロールには、クライアント プロファイリング、メンテナンス、パーソナライゼーション、レポートが含まれます。

Sitecore クライアント セキュリティ ロールの詳細については、『クライアント設定クックブック』を参照してください。

3.3 アナリティクス設定の設定

各設定で使用できる値は、設定ファイルの各 `/configuration/sitecore/settings/setting` エlementの上にあるコメントで説明されています。

重要

web.config に関する重要な注意については、「Engagement Analytics の機能と概念Engagement Analytics の機能と概念」のセクションを参照してください。

Analytics.AutoDetectBots 設定

アナリティクス エンジンが検索エンジンなどの Web ロボットを自動的に分類しようとするかどうかは、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.AutoDetectBots` によって指定されます。自動ロボット検出の詳細については、「自動ロボット検出」のセクションを参照してください。

Analytics.BulkCopyBatchSize 設定

アナリティクス データをメモリーから固定のデータベース記憶域に転送するときの、大容量のコピー操作をバッチ化するための行の数は、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.BulkCopyBatchSize` によって指定されます。

Analytics.CampaignQueryStringKey 設定

Engagement Analytics エンジンがキャンペーンをトリガーするときに使用される URL クエリ文字列パラメーターの名前は、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.CampaignQueryStringKey` によって指定されます。キャンペーンの詳細については、「キャンペーン」のセクションを参照してください。

Analytics.DisableDatabase 設定

アナリティクス データベースへの読み書きは、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.DisableDatabase` によって無効になります。

詳細については、「Disabling the Analytics Database」のセクションを参照してください。

Analytics.EmailFromAddress 設定

Engagement Analytics エンジンで生成されたメッセージの送信者として使用される Email アドレスは、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.EmailFromAddress` によって指定されます。Email 配信の詳細については、「Engagement Analytics の Email 配信」を参照してください。

Analytics.Enabled 設定

Sitecore で着信 HTTP 要求に関する情報をストアするかどうかは、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics.Enabled` によって指定されます。アナリティクスを使用しない環境でパフォーマンスの向上を図る場合には、`Analytics.Enabled` を `false` に設定してください。

Analytics.EventQueryStringKey 設定

Engagement Analytics エンジンがイベントをトリガーするときに使用される URL クエリ文字列パラメーターの名前は、web.config の `/configuration/sitecore/settings/setting` Elementの value 属性で、name `Analytics`

ics.EventQueryStringKey によって指定されます。イベントの詳細については、「Engagement Analytics ページ イベント」の「Engagement Analytics データ キュー」のセクションを参照してください。

Analytics.GeoIps.CacheSize 設定

GeoIP ルックアップ マネージャー内のキャッシュされたアイテム数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.GeoIps.CacheSize によって指定されます。

Analytics.LogLevel 設定

アクティビティをログに記録するかどうかのしきい値は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.LogLevel によって指定されます。デフォルトでは、Engagement Analytics エンジンエラーと例外のみをログに記録します。

Analytics.LongRunningRequest 設定

Engagement Analytics 処理を許可する時間 (ミリ秒) は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.LongRunningRequest によって指定されます。処理がこのしきい値を超えた場合、Sitecore ログとEngagement Analytics レポートにはエラーとして表示されます。

Analytics.MaxCachedRows 設定

各定義テーブルのデータのうち、メモリーに保存される行の数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.MaxCachedRows によって指定されます。この値を超えると、行の半数はメモリーから破棄されます。

Analytics.MaxQueueSize 設定

データ キューの最大サイズは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.MaxQueueSize によって指定されます。データ キューについての情報は「Engagement Analytics データ キュー」のセクションを参照してください。現在のデフォルト値は 10,000 です。

注意

Engagement Analytics データ キューのサイズが、ASP.NET に使用可能なメモリーを超えることはできません。データ キューの上限に達した場合でも、キュー サイズが不適切とは限りません。キュー サイズの制限に達した場合には、ハードウェアにおけるピーク ロードの処理が不適切、侵入性の高いロボットなどの原因も考えられます。

Analytics.PerformLookup 設定

インスタンスでリバース DNS ルックアップと GeoIP ルックアップを実行するかどうかは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name Analytics.PerformLookup によって指定されます。ルックアップを実行する必要があるのは、アナリティクス データベースに接続している Sitecore インスタンスのうち 1 つのみです。

重要

MaxMind プロバイダーを含めて GeoIP ルックアップ プロバイダーのほとんどは、GeoIP ルックアップの実行にインターネット アクセスを必要とします。インターネットにアクセスできない環境では、Analytics.PerformLookup を false に設定してください。

Analytics.PerformLookup.Interval 設定

ルックアップ処理の間隔は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.PerformLookup.Interval によって制御されます。

Analytics.ReverseDnsLookupTimeout 設定

リバース DNS ルックアップ処理を許可する時間 (ミリ秒) は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.ReverseDnsLookupTimeout によって指定されます。

Analytics.Robots.IgnoreRobots 設定

ロボットとして検出された要求からのアクセスがデータベースに書き込まれないことは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Robots.IgnoreRobots が true と設定されたときに指定されます。

Analytics.Robots.IgnoreAutoRobots 設定

自動ロボットとして検出された要求からのアクセスがデータベースに書き込まれないことは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.IgnoreAutoRobots が true と設定されたときに指定されます。

Analytics.Sampling.Percentage 設定

アナリティクス データベース内に収集されるアクセスの割合は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Sampling.Percentage によって指定されます。デフォルトの 100 にすると、すべてのアクセスのすべてのデータが収集されます。

Analytics.TrackerChanges.FlushInterval 設定

アナリティクス追跡データをメモリーからデータベースへ書き込む頻度は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.TrackerChanges.FlushInterval によって指定されます。

Analytics.TrackerChanges.MaxRows 設定

アナリティクス追跡データがメモリーからデータベースに書き込まれる前に、メモリーに保持されるアナリティクス追跡データの行数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.TrackerChanges.MaxRows によって指定されます。

Analytics.TrackerChanges.Sleep 設定

トラッカーによるキューの非アクティブ期間の変更は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.TrackerChanges.Sleep によって指定されます。

Analytics.UpdateBatchSize 設定

バッチ操作に含める SQL 要求の数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.UpdateBatchSize によって指定されます。

Analytics.UseBulkCopy 設定

データベースに行を挿入するために大容量のコピー操作を使用するかどうかは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.UseBulkCopy によって指定されます。

Analytics.Automation.BatchSize 設定

バッチで処理するレコードの数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Automation.BatchSize によって指定されます。

Analytics.Automation.Interval 設定

ワークフローのワーカー プロセスを実行する頻度は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Automation.Interval によって指定されます。

Analytics.Automation.MachineName 設定

ワークフロー エンジンを実行するサーバーの名前は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Automation.MachineName によって指定されます。

Analytics.Automation.Threads 設定

ワークフロー エンジンで使用されるスレッドの数は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エLEMENTの value 属性で、name Analytics.Automation.Threads によって指定されます。

3.3.1 追加の Engagement Analytics の設定

このセクションで説明されている設定ファイルのエントリは、DMS のインストール中に得られる Sitecore.Analytics.config ファイルには含まれません。関連機能を有効にするには、自身でこれらのエントリを追加する必要があります。

Analytics.Patterns.MinimalProfileScoreCount 設定

パターン カードを使用している場合は、以下の行を Sitecore.Analytics.config ファイルの configuration/sitecore/settings セクションに追加する必要があります。

```
<setting name= "Analytics.Patterns.MinimalProfileScoreCount" value= "3" />
```

パターンマッチ動作が始まる前のアクセス中にアクセスされる必要のあるページの数、この設定の value 属性で、指定されます。たとえば、value= "3" の場合、アクセスされたページ数が 4 以上のときにパターンマッチが始まります。

プロファイル、プロファイル カード、パターン カードの詳細については、『Sitecore マーケティング オペレーション クックブック』を参照してください。

3.4 アナリティクス プロバイダー

デフォルトのアナリティクス プロバイダーを更新し、Engagement Analytics データをデフォルトの Sitecore アナリティクス データベース以外のシステムにストアするには、デフォルトのアナリティクス プロバイダーと同じシグネチャーを持つカスタムアナリティクス プロバイダー クラスを実装します。

次に、Sitecore.Analytics.config の /configuration/sitecore/dataAdapterManager/providers/add エLEMENTの type 属性で、実装したクラスを参照するように name="default" を更新するか、<providers> エLEMENTに <add> エLEMENTを追加して一意の name を指定し、カスタム プロバイダーを参照するように type 属性を更新した上で、<dataAdapterManager> エLEMENTの defaultProvider 属性を name に設定します。

```
<dataAdapterManager defaultProvider="default">
  <providers>
    <clear/>
    <add name="default" type="Sitecore.Analytics.Data.DataAccess.DataAdapters.
      Sql.SqlServer.SqlServerDataAdapterProvider, Sitecore.Analytics"/>
  </providers>
</dataAdapterManager>
```

重要

カスタムアナリティクス プロバイダーは、デフォルトのアナリティクス プロバイダーと同じシグネチャーを持つ必要があります。

3.5 GeoIP ルックアップ プロバイダー

GeoIP ルックアップ プロバイダーは、web.config の /configuration/sitecore/lookupManager/providers/add エLEMENTの type 属性で、name default によって指定されます。

3.5.1 GeoIP ルックアップ プロバイダーの実装方法

カスタム GeoIP ルックアップ プロバイダーを実装する方法:

1. Visual Studio の Web アプリケーション プロジェクトで Sitecore.Analytics.Lookups.LookupProviderBase クラスから継承するクラスを作成します。
2. この新しいクラスで、GetInformationByIp() メソッドを実装します。
3. web.config ファイルの /configuration/sitecore/lookupManager/providers/add エLEMENTで、新しいクラスを参照するように type 属性を更新します。

3.5.2 MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーの設定

MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーを使用するには、このセクションで説明されている設定を構成してから、web.config の /configuration/sitecore/lookupManager/providers/add エLEMENTの type 属性で、name default を次の値に設定します:

Sitecore.Analytics.Lookups.MaxMindProvider, Sitecore.Analytics

Engagement Analytics には、テストと実装の便宜上、および CEP の機能を最初から利用できるように、多数のルックアップが無償で付属していますが、無償のルックアップ バッチは有効期限があり、MaxMind から追加購入が必要です。

MaxMind への登録と、追加ルックアップの購入については、次のページを参照してください: <http://sdn.sitecore.net/Products/OMS/MaxMind.aspx>

重要

購入した MaxMind GeoIP ルックアップ サービスを使用する場合、MaxMind.Url 設定を MaxMind から指定される URL に変更する必要があります。MaxMind.Url 設定の詳細については、「MaxMind.Url 設定」のセクションを参照してください。

Sitecore CMS 内で GeoIP Web サービスを使用する際に何か問題が発生した場合は、MaxMind のサポート部門 (support@maxmind.com) までメールでご連絡ください。また、月曜から金曜の 9:30 ~ 17:00 (東部標準時) までアクセス可能なチャットサービス (www.maxmind.com) もご利用いただけます。

通常の営業時間中に受信したすべてのメッセージは、同日中に返信いたします。それ以外のメッセージについては、翌営業日中に返信いたします。

注

お手持ちの MaxMind-Sitecore ライセンス キーを使用して、MaxMind に対するご質問の権利を追加購入できます。www.maxmind.com/app/sitecore にアクセスしてください。

MaxMind.Encoding 設定

MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーで使用されるページ エンコーディングは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name MaxMind.Encoding によって制御されます。

MaxMind.Format 設定

MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーで使用されるフォーマットは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name MaxMind.Format によって制御されます。

MaxMind.SecurityToken 設定

MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーで使用されるセキュリティは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name MaxMind.SecurityToken によって制御されます。

MaxMind.Url 設定

MaxMind GeoIP ルックアップ プロバイダーで使用される URL は、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エレメントの value 属性で、name MaxMind.Url によって制御されます。

3.6 サイト定義 enableAnalytics 属性

Web サイトごとに Engagement Analytics データのキャプチャを有効または無効にするには、web.config の適切な /configuration/sitecore/sites/site エLEMENTの enableAnalytics 属性を true または false に設定します。

ヒント

コンテンツ管理をコンテンツ デリバリから分離する場合、コンテンツ管理環境でアナリティクス データがキャプチャされないように、コンテンツ管理環境のすべての論理サイトで enableAnalytics 属性を false に設定します。

3.7 Sitecore DMS でのデータ収集とレポート作成に別々のデータベースを使用する

Sitecore 6.6 のリリースでは、データ収集用のデータベースとレポート用のデータベースを個別に使用できます。これにより、データベースに対する書き込みとデータベースからのデータの抽出の両方のパフォーマンスが向上します。コレクション データベース (Sitecore_Analytics) は、データの書き込みとデータの限定抽出に最適化されています。レポート用データベースは、大容量のデータ抽出用に最適化されています。収集用データベースとレポート用データベースを異なる物理サーバ上に配置すれば、パフォーマンスの向上を実現できます。

専用のオートメーション データベースを用意して、コンテンツ配信 (CD) 環境とコンテンツ管理 (CM) 環境間で共有し、物理 SQL サーバ間で負荷を分散するように設定すれば、さらなるパフォーマンスの向上が可能です。

3.7.1 データの転送

収集用データベースとレポート用データベース間のデータ転送は、SSIS パッケージによって実行されます。SSIS パッケージは、SQL Server エージェントのスケジュールされたジョブによって定期的に行われます。SSIS パッケージは、Sitecore DMS Data Transfer Package と呼ばれます。このパッケージの最新バージョンは、SDN の Sitecore 6.6 のセクションからダウンロードできます。SSIS パッケージでは、次のパラメーターを設定できます。

パラメーター	説明
SourceConnection (データ ソース)	ソースデータベース (収集用) の接続文字列。 このパラメーターは、パッケージを実行するスケジュールされたジョブを設定するときに変更できます。
DestinationConnection (データ ソース)	宛先データベース (レポート用) 接続文字列。 このパラメーターは、パッケージを実行するスケジュールされたジョブを設定するときに変更できます。
bufferTime (可変)	訪問が登録されるなどしてレコードが収集データベースに出現してから、そのレコードがレポート用データベースにコピーされるまでの遅延時間 (秒)。 このパラメーターは、パッケージを実行するスケジュールされたジョブを設定するときに変更できます。 デフォルト値:3600 秒。

次のスケジュールでは、毎晩 23 時に実行されるようにパッケージを設定しています。毎晩 23.30 に DMS (レポート) で実行される別のバックグラウンド ジョブ用にデータを準備し、エクゼクティブ ダッシュボードおよび Engagement Analytics の概要情報を更新します。

DMS バックグラウンド ジョブのスケジュール:

順序	スケジュール	名前
1	毎晩 23 時	収集データベースからレポート データベースにデータを転送する
2	毎晩 23 時 30 分	レポート用データベースのサマリー ビューを更新する デフォルト値:毎日 23 時 30 分に実行。

データベース管理者は上記 2 つのジョブを変更できますが、2 つのジョブはこの順序で実行する必要があります。また、最初のジョブが終了してから 2 番目のジョブを開始するまでに十分な時間を確保しておく必要があります。そうしないと、2 番目のジョブのパフォーマンスが低下することがあります。

2 番目の DMS バックグラウンド ジョブは、レポート データベースのデータを更新した後に、エクゼクティブ ダッシュボード および Engagement Analytics の概要情報を更新します。

このバックグラウンド ジョブのスケジュールは、Sitecore.Analytics.Config ファイルのスケジュール設定セクションに次のように指定します。

```
<agent type="Sitecore.Analytics.Tasks.UpdateReportsSummaryTask, Sitecore.Analytics" method="Run" interval="00:00:00">
<UpdateReportsSummaryAt>23:30:00</UpdateReportsSummaryAt>
</agent>
```

3.7.2 データ収集用とレポート用に別々のデータベースを使用するように Sitecore を設定する

以下の各手順は、次の前提に従うものとします。

- 既存の DMS データベースの名前は Sitecore_Analytics で、収集用データベースとして使用されます。
- 新規のレポート用 DMS データベースの名前は Sitecore_Reporting です。
- 新規のオートメーション EAS データベースの名前は Sitecore_Automations です。

概要

データ収集用とレポート用に別々のデータベースを使用するように Sitecore DMS を設定するには、次の手順を実行する必要があります。

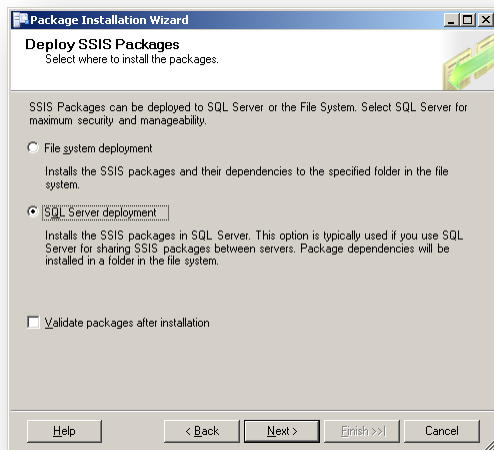
1. Sitecore_Analytics データベースのコピーを作成し、Sitecore_Reporting と命名します。
2. SQL Server 上に Sitecore DMS Data Transfer Package を展開します。
3. SQL Server Management Studio を起動して Sitecore_Analytics データベースに接続し、Sitecore DMS Data Transfer Package で DatabaseAddon.sql を実行します。
これにより、SSIS パッケージ用の Sitecore_Analytics データベースが作成されます。
4. Sitecore_Analytics データベースから Sitecore_Reporting データベースにデータを転送するためのスケジュールされたジョブを設定します。
5. 次の接続文字列を使用するように Sitecore CMS インスタンスを再構成します。
 - <add name="analytics" connectionString="…Sitecore_Analytics"/>
 - <add name="reporting" connectionString="…Sitecore_Reporting"/>
6. 必要に応じて、専用のオートメーション データベースを用意します。

次の各セクションで、より複雑な手順を詳細に説明します。

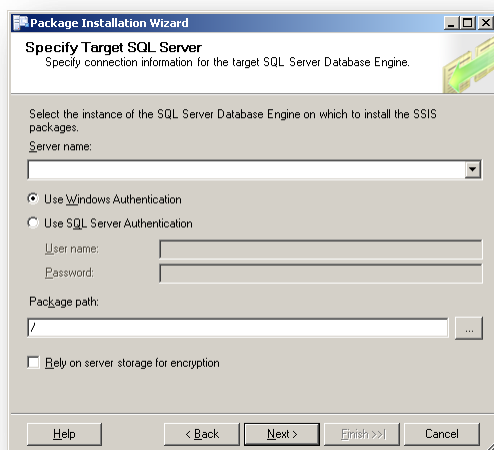
SQL Server 上に Sitecore DMS Data Transfer Package を展開する

1. Sitecore DMS Data Transfer Package を解凍します。
この zip ファイルを Sitecore_Reporting データベースが展開されている SQL Server インスタンスと同じサーバー上のフォルダーに置きます。

2. [MoveAnalyticsData.SSISDeploymentManifest] をダブルクリックすると、[パッケージ インストール ウィザード] が開きます。
このウィザードに従ってインストール プロセスを進めます。
3. [SSIS パッケージの展開] ウィンドウで、[SQL Server の展開] をクリックします。

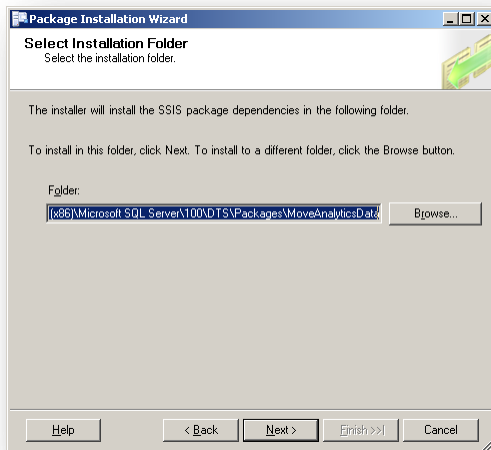


4. [ターゲット SQL Server の指定] ウィンドウで、サーバー名と使用する資格情報を入力します。



5. [パッケージのパス] フィールドに、パスとして / を指定します。

6. [インストール フォルダーの選択] ウィンドウで、SSIS パッケージ用のインストール パスを選択します。



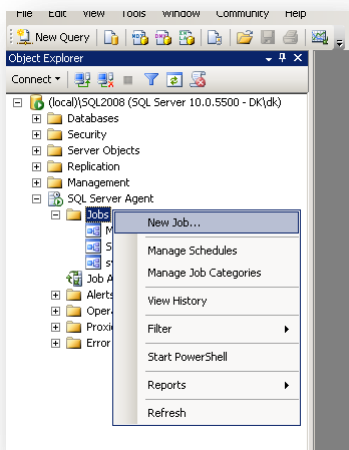
7. インストール ウィザードが終了し、パッケージがインストールされます。

スケジュールされたジョブの設定

SSIS パッケージをインストールしたら、Sitecore_Analytics データベースから Sitecore_Reporting データベースにデータを転送するためのスケジュールされたジョブを設定します。

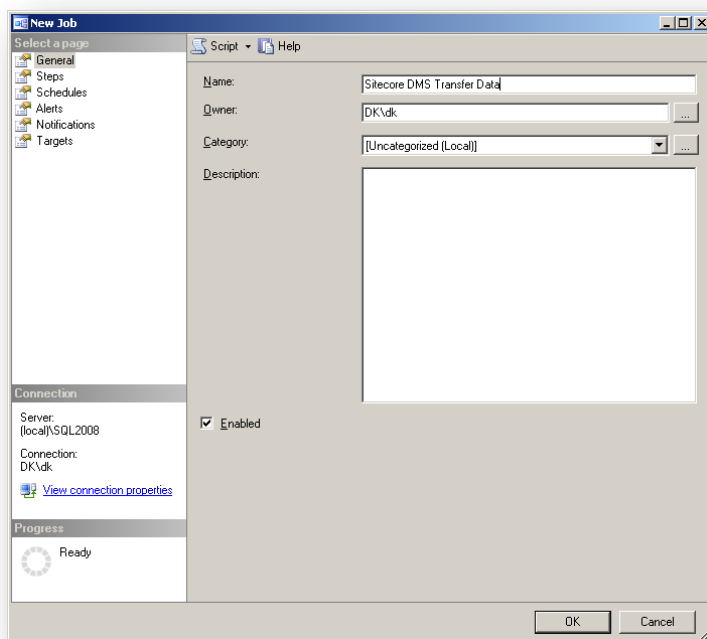
スケジュールされたジョブを設定するには、次の手順を実行します。

1. SQL Server Management Studio を起動し、Sitecore_Reporting が展開されている SQL Server インスタンスに接続します。



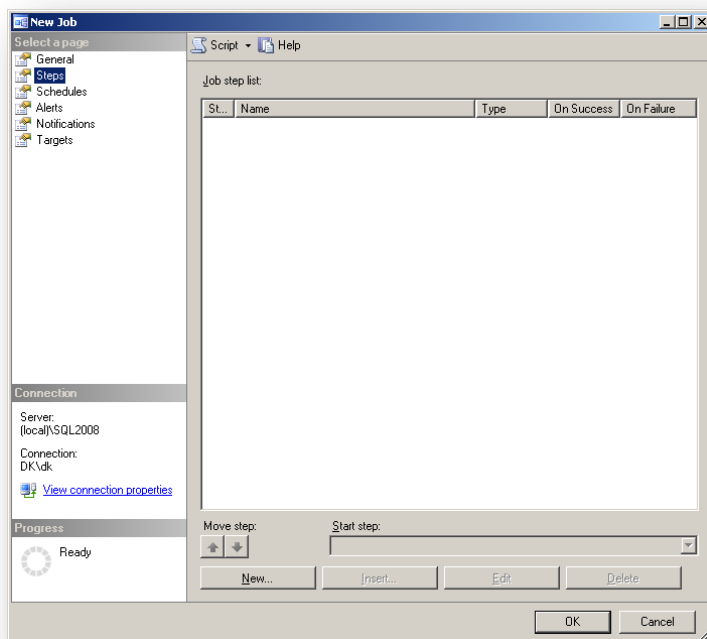
2. [オブジェクト エクスプローラー] で、[SQL Server Agent] ノードを展開します。

3. [Jobs] ノードを右クリックして、[新規ジョブ] を選択します。

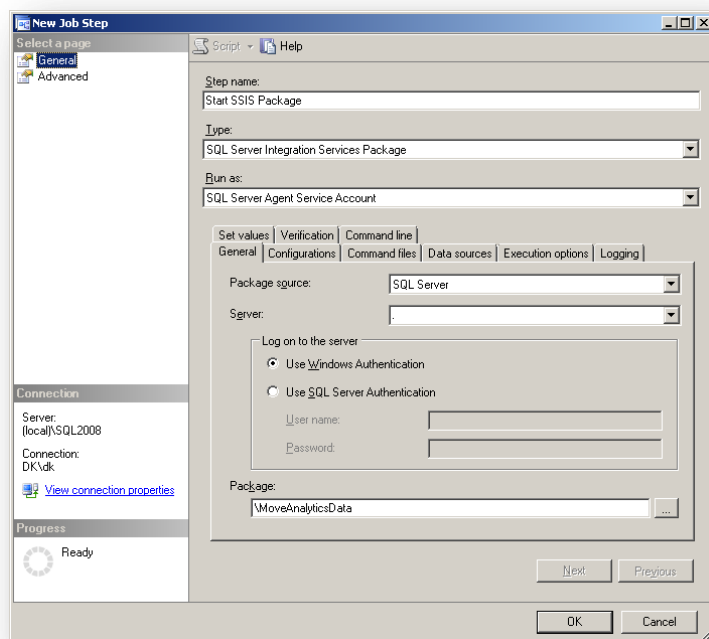


4. [新規ジョブ] ダイアログ ボックスで、一意なジョブ名を入力します。

5. [ページの選択] パネルで、[Steps] を選択します。

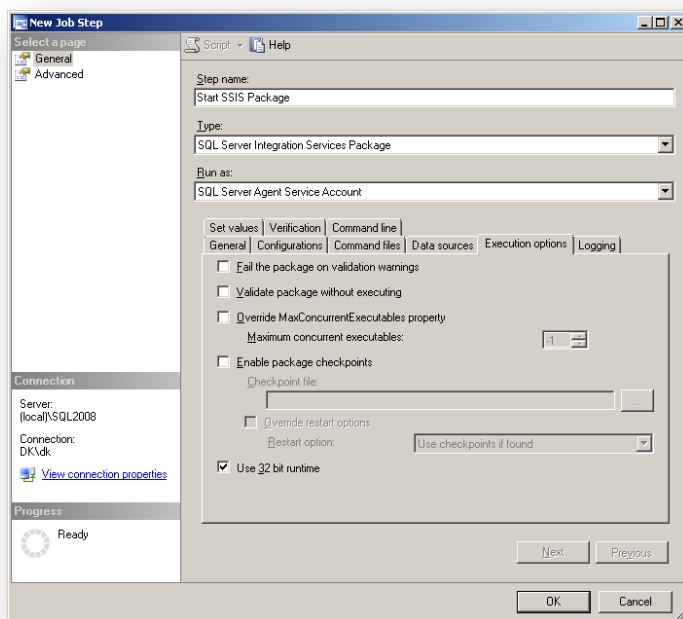


6. [新規...] をクリックして新しい手順を保存します。



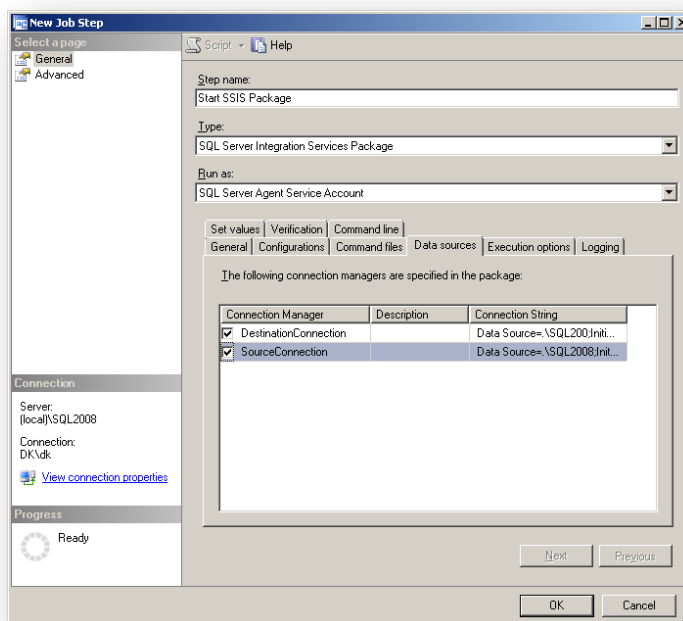
7. [新規のジョブ手順] ダイアログ ボックスの [手順名] フィールドで、一意な手順名を入力します。
8. [種類] フィールドで、[SQL Server Integration Services Package] を選択します。
9. [全般] タブの [パッケージ ソース] フィールドで、[SQL Server] を選択します。
10. [サーバー] フィールドに、パッケージが展開されている SQL Server インスタンスを選択します。
11. [サーバーにログオン] セクションで、使用する認証の種類を選択し、SQL Server インスタンスの適切な資格情報を入力します。
12. [パッケージ] フィールドで [参照] ボタンをクリックして、パッケージを選択します。

13. [実行オプション] タブをクリックします。



14. [32 ビット ランタイムを使用] チェックボックスを選択します。

15. [データ ソース] タブをクリックします。



16. [宛先接続] および [ソース接続] 接続マネージャーを選択します。

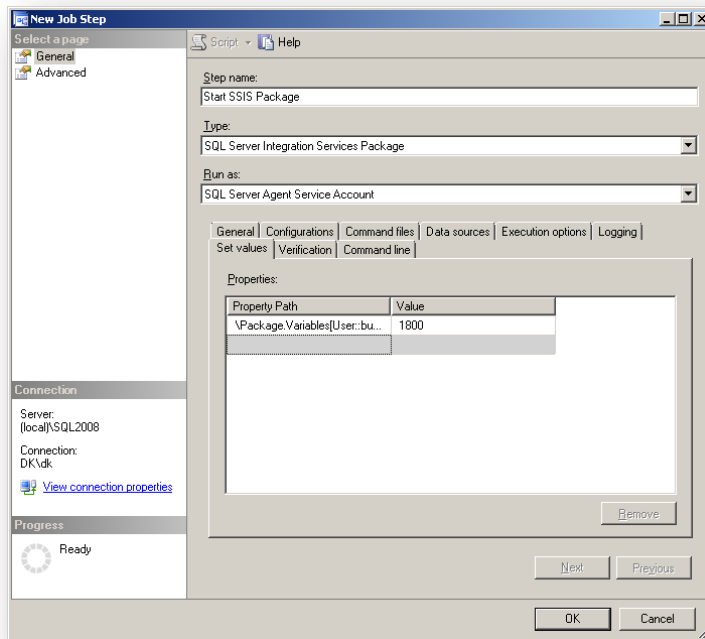
17. 宛先データベース (Sitecore_Reporting) とソース データベース (Sitecore_Analytics) の接続文字列を指定します。

接続文字列は、次の形式で指定する必要があります。

`DData Source=<server name>;Initial Catalog=<database name>;Provider=SQLN
CLI10.1;Integrated Security=SSPI;Auto Translate=false;Application Name=SSIS-Transfer DMS;`

18. かっこ内の値をサーバーとデータベースの本当の名前で読み替えてください。

19. buffer Time 変数を変更する必要がある場合は、**[値の設定]** タブをクリックします。



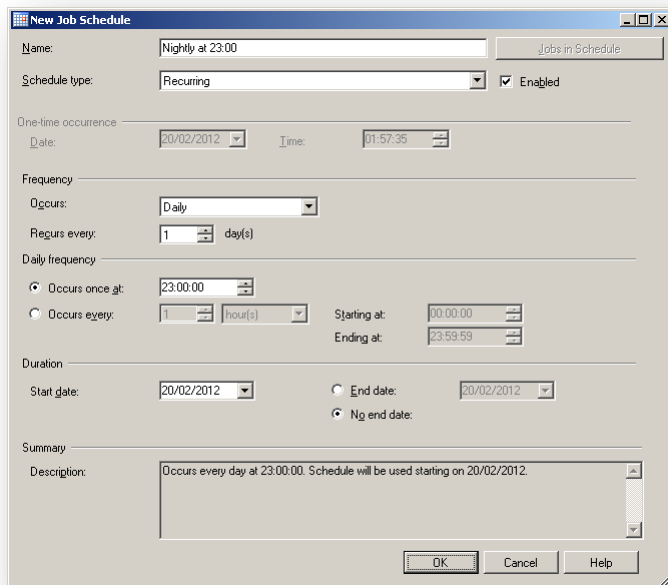
buffer Time 変数は、訪問が登録されるなどしてレコードが収集データベースに出現してから、そのレコードがレポート用データベースにコピーされるまでの遅延時間 (秒) を定義します。

20. **[プロパティ]** フィールドの **[プロパティ パス]** 列に、`¥Package.Variables[User::bufferTime].Properties[Value]` と入力します。

21. **[値]** 列に、適切な値を入力します。

22. **[OK]** をクリックして、**[新規ジョブ]** ダイアログ ボックスに戻ります。

23. [ページの選択] パネルの [新規ジョブ] ダイアログ ボックスで、[Schedule]、[新規] の順にクリックして、[新規ジョブのスケジュール] ダイアログ ボックスを開きます。



24. たとえば、毎日 23 時に実行するようスケジュールを設定します。
25. [OK] をクリックして、[新規ジョブ] ダイアログ ボックスに戻ります。
26. [OK] をクリックすると、ジョブが作成されます。

専用オートメーション データベースの設定

専用のオートメーション データベースを設定するには、次の手順を実行します。

1. Sitecore_Analytics データベースのコピーを作成し、Sitecore_Automations と命名します。
2. CM 環境および CD 環境の接続文字列を設定します。
`<add name="automations" connectionString="…Sitecore_Automations" >`
3. Sitecore_Analytics データベースで、Automation States 表をクリアするために、次の文を実行します。
`DELETE FROM [AutomationStates];`

3.8 Sitecore_Analytics データベースのレポート概要データを更新する SQL Server エージェントの設定

このセクションの情報は、Sitecore 6.6 以降に適用されます。

Sitecore.Analytics.config ファイルには、UpdateReportsSummaryTask と呼ばれる設定が記述されています。この設定では、Sitecore_Analytics データベースのレポート概要データを SQL エージェントで更新するよう指定します。この設定は、ビューを自動更新する既定の方法です。

UpdateReportsSummaryTask 設定の詳細については、「Sitecore DMS でのデータ収集とレポート作成に別々のデータベースを使用する」セクションを参照してください。

このタスクを実行するよう SQL Server エージェント ジョブを設定することもできます。SQL Server エージェント ジョブは、管理性と信頼性に優れ、ビューの自動更新をより柔軟に設定できる方法です。

SQL Server エージェント ジョブでは、レポートおよびダッシュボードの最新データを使用できます。

必要条件

- SQL Server Standard Edition 以上
- SDN の Sitecore 6.6 のセクションから DMS660_Job.sql スクリプトをダウンロードします。

メモ

SQL Server Express Edition は SQL Server エージェントをサポートしていません。

設定

1. 更新ジョブを作成するには、Sitecore_Analytics データベースで、DMS660_Job.sql を実行します。
Refresh Summary Views (<Sitecore_Analytics データベース名>) というジョブが作成されます。
2. ソリューションの要件を満たすようジョブのスケジュールを調整します。ジョブを実行する時刻、およびシャットダウン前に SQL Server でジョブが完了するのを待機する間隔を指定します。
3. ジョブを実行し、正常に実行されていることを確認します。
4. Sitecore.Analytics.config ファイルを開きます。
このファイルは、C:\inetpub\wwwroot\Your Sitecore Installation\Website\App_Config\Include フォルダに保存されています。
5. エージェントの種類の定義 (Sitecore.Analytics.Tasks.UpdateReportsSummaryTask) をコメント化します。

```
<scheduling>
  <agent type="Sitecore.Analytics.Tasks.EmailReportsTask, Sitecore.Analytics" method="Run" interval="1:00:00">
    <DatabaseName>master</DatabaseName>
  </agent>
  <agent type="Sitecore.Analytics.Tasks.SubscriptionTask, Sitecore.Analytics" method="Run" interval="00:15:00">
    <Minutes>15</Minutes>
  </agent>
  <!--<agent type="Sitecore.Analytics.Tasks.UpdateReportsSummaryTask, Sitecore.Analytics" method="Run" interval="00:30:00">
```

```
<UpdateReportsSummaryAt>23:30:00</UpdateReportsSummaryAt>  
</agent>-->  
</scheduling>
```

この新しい SQL Server エージェント ジョブと Sitecore.Analytics.config ファイルで定義されているエージェントは同じタスクを実行します。

SQL Server Express 上で実行している場合は、Sitecore.Analytics.config ファイルで定義されているエージェントを使用する必要があります。

3.9 エグゼクティブ ダッシュボード設定ファイル

Sitecore ダッシュボードでは、複数の個別の設定ファイルを使用します。

XML ファイル	関連ダッシュボード
DefaultSettings.config	エグゼクティブ ダッシュボード
Configuration.config	エグゼクティブ ダッシュボード
CampaignCategoryDefaultSettings.config	単一キャンペーン カテゴリ ダッシュボード
SingleCampaignDefaultSettings.config	単一キャンペーン ダッシュボード
SingleTrafficTypeDefaultSettings.config	単一トラフィックの種類ダッシュボード

これらの各ファイルは、形式は同じですが、異なる設定が記述されています。

DefaultSettings.config ファイルには、エグゼクティブ ダッシュボードに送信されるプロパティを指定できる複数の設定が記述されています。

ダッシュボード アプリケーションが統合 Web ハンドラーにデフォルトの設定を返すように要求すると、同ハンドラーは、Configuration.config に定義されたファイルへのパスを、適切なクエリ文字列パラメーターとともに返します。クエリ文字列パラメーターには、次の 3 つがあります。

- `<SingleCampaignDefaultSettingUrl value="/data/SingleCampaignDefaultSettings.config"/>`
- `<SingleTrafficTypeDefaultSettingUrl value="/data/SingleTrafficTypeDefaultSettings.config"/>`
- `<CampaignCategoryDefaultSettingUrl value="/data/CampaignCategoryDefaultSettings.config"/>`

Sitecore デベロッパーは、これらのパラメーターを使用して、既定の設定を上書きするか、別の既定の設定ファイルにリダイレクトします。

これらの設定ファイルの設定では、次に示すダッシュボードのさまざまな機能を定義できます。

- ダッシュボードが使用するデータの時間範囲。
- ダッシュボードがデータを表示する Web サイト。
- ダッシュボードが使用するデフォルトの Web サイトとデフォルトの言語。
- 使用可能なダッシュボード。
- デフォルトのダッシュボード。

configuration.config ファイルは、インストール先の¥Website¥sitecore¥shell¥Applications¥Reports¥Dashboard フォルダーに格納されています。

configuration.config ファイルには、次の内容が設定されています。

設定	定義
<code><ChartPageSize value="20"/></code>	スクロール バーを表示する場合にグラフの垂直軸に表示するアイテム数。
<code><ChartItemsTopNumber value="100"/></code>	グラフに表示されるエントリ数。この例では、先頭の100 エントリを表示します。
<code><MinimumVisitsFilter value="1" /></code>	グラフに表示される最少訪問者数。このしきい値を下回る値は統計的に有意でないとみなされます。
<code><DataTimeFrom value="20080101"/></code>	データ取得の開始日。
<code><!--<DataIntervalDays value="365"/>--></code>	データの取得期間 (UTC 現在日付からの遡及日数)。

第 4 章

Sitecore.Analytics API

この章では、Sitecore.Analytics API (Application Programming Interface) について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- Sitecore.Analytics API の概要

4.1 Sitecore.Analytics API の概要

Sitecore.Analytics API を使用するには、Visual Studio プロジェクトで、/bin フォルダの Sitecore.Analytics.dll アセンブリへの参照を Sitecore ソリューション Web サイトのドキュメント ルート内に追加します。Engagement Analytics API についての情報は、『Sitecore Engagement Analytics API クックブック』を参照してください。

注意

Visual Studio プロジェクトで、/bin フォルダのプロジェクトにおけるアセンブリへの参照すべての Copy Local プロパティを、False に設定します。参照されるアセンブリの Copy Local プロパティを False に設定しない場合は、Visual Studio で /bin フォルダからアセンブリが削除され、Sitecore でエラーが発生する可能性があります。

4.1.1 Sitecore.Analytics.Tracker

Sitecore.Analytics.Tracker 静的クラスは、Tracker.DataContext プロパティにアクセスする機能を提供します。現在の要求でアナリティクスを有効にするかどうかは、Sitecore.Analytics.Tracker.IsActive プロパティで指定します。

Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentPage

Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentPage クラスは、アクセスでのページを表します。アクセスにおける前のページ、現在のページ、次のページにイベントを関連付けることができます。

Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentVisit

Sitecore.Analytics.Tracker.CurrentVisit クラスは、現在アクセス中のアクティビティを表します。

4.1.2 Sitecore.Analytics.TrackerDataContext

Sitecore.Analytics.TrackerDataContext から、ページイベント、ページ、キャンペーン、GeoIps、タグなどの現在のアクセスについての情報を得ることができます。

Sitecore.Analytics.TrackerDataContext.Tags

Sitecore.Analytics.TrackerDataContext.Tags コレクションを使用すると、Engagement Analytics タグにアクセスできます。タグ コレクションは名前と値のペアで構成され、それらはプログラムから割り当てることができます。

4.1.3 VisitorIdentification

Web コントロールは、Sitecore アナリティクス エンジンでロボットを識別する際に効果的です。VisitorIdentification Web コントロールでは、空の CSS リソースを参照する HTML の <link> エlementが生成されます。Engagement Analytics エンジンでは、この要求を使用してロボットと実際のユーザーを識別します。自動ロボット検出の詳細については、「自動ロボット検出」のセクションを参照してください。

重要

Engagement Analytics エンジンがロボットを識別しやすいように、すべてのレイアウトの HTML <head> セクションに VisitorIdentification Web コントロールを組み込んでください。次はその例です：

```
<sc:VisitorIdentification runat="server" />
```

第 5 章

Engagement Analytics のトラブルシューティング

この章では、Engagement Analytics エンジンで起きる問題のトラブルシューティング手順について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- Engagement Analytics のトラブルシューティングの概要

5.1 Engagement Analytics のトラブルシューティングの概要

次のセクションの情報を使用して、Engagement Analytics エンジンで起きる問題のトラブルシューティングを行います。

5.1.1 Sitecore ログ

トラブルシューティングは常に、Sitecore ログ ファイルを調べることから始まります。ログ ファイルは、web.config の /configuration/sitecore/settings/setting エlementの value 属性で name LogFolder によって指定されるディレクトリにあります。

5.1.2 Engagement Analytics コントロール パネル

Sitecore デスクトップの [コントロール パネル] の [エンゲージメント アナリティクス] セクションには、リバース DNS ルックアップと GeoIP ルックアップが成功したか失敗したかに関する情報が示されます。

Sitecore がリバース DNS ルックアップと GeoIP ルックアップを実行できるかどうかを判定する方法:

1. Sitecore デスクトップで [Sitecore] ボタンをクリックします。[Sitecore] メニューが表示されます。
2. [Sitecore] メニューで、[コントロール パネル] をクリックします。Sitecore デスクトップに [コントロール パネル] が表示されます。
3. [コントロール パネル] で、[アナリティクス] をクリックします。[Engagement Analytics コントロール パネル] が表示されます。
4. [エンゲージメント アナリティクス コントロール パネル] で [参照を更新する] をクリックし、表示されるウィザードの指示に従います。
5. [エンゲージメント アナリティクス コントロール パネル] で、[アナリティクス ステータスを取得する] をクリックします。Sitecore デスクトップに [アナリティクス ステータス情報] レポートが表示されます。
6. アナリティクス ステータス情報レポートで、[リクエスト] の [前回の成功] に最新の日時が示されていない、または [リクエスト] の [最後に発生した失敗] に最新の日時が示されている場合には、システムがイベント キューを超過しています。

メモ

リバース DNS ルックアップまたは GeoIP ルックアップの処理がタイムアウトなどでエラーになる場合、リバース DNS ルックアップ プロバイダーから得られる情報は Engagement Analytics レポートに示されません。GeoIP ルックアップ プロバイダーの設定をチェックしてシステムがインターネットにアクセスできることを確認し、Sitecore のログで詳細を調べてください。

Sitecore デスクトップの [コントロール パネル] の [エンゲージメント アナリティクス] セクションの他のオプションによって、設定データをアナリティクス データベースから Master データベースにコピーし、訪問者の分類を更新することができます。